

難聴者の聞こえと生活の実態調査

難聴者の情報保障を促進するため、難聴者が生活する上でどのような困難を抱えているのかを明らかにする実態調査を行っています。あなたの回答が今回の調査目的以外に使われることはありません。プライバシーは厳守いたします。

あなたの普段の生活状況に照らし、自分自身の考えでそれぞれの質問にお答え下さい。選択肢には丸をつけて下さい。できるだけ全ての質問にお答え下さい。

記入日 平成\_\_年\_\_月\_\_日 性別 ｲ)男 ｳ)女  
年齢 ｲ)～20代 ｳ)30代 ｴ)40代 ｵ)50代 ｶ)60代 ｻ)70代 ｴ)80代～

①聴覚障害の手帳の有無 ｲ)持っている ｳ)持っていない

②あなたの難聴をほす15歳の聞こえの程度を教えてください。以下であてはまるレベルは1から5まで○をつけて下さい。

- T 1 全く聞こえない
- T 2 テレビやラジオの音量を上げても聞き取れない
- T 3 静かな部屋でも大声の会話を聞き取れない
- T 4 ドア、目覚まし、電話のベルが聞こえない
- T 5 電話の声を聞き取れない
- T 6 他人が聞き取れる音量でテレビやラジオを聞き取れない
- T 7 静かな部屋で普通の会話を聞き取るのが困難
- T 8 特に問題ない

次のような場面の聞こえ具合で、あなたがどのくらい困っているかを教えてください。5つの選択肢の中から一つだけ当てはまるものを選んで番号に○をつけて下さい。なお、そのような場面に出る機会がない方は「5. 機会がない」を選んで○をつけて下さい。また、その他の質問にもあてはまるものを選んで番号に○をつけて下さい。

I 家庭生活

Q1. 静かな部屋での家族や来客、友人との1対1の会話  
困らない 少困る かなり困る 非常に困る 機会がない

Q2. 静かな部屋での家族や来客、友人2～3人との会話  
困らない 少困る かなり困る 非常に困る 機会がない

Q3. 家族や来客、友人5～6人以上集まる賑やかな会話  
困らない 少困る かなり困る 非常に困る 機会がない

難聴者の聞こえと生活の実態調査用紙

⑤聞こえの低下を自覚するようになってどのくらい経ちますか？  
ｲ)1年未満 ｳ)1～2年 ｴ)3～4年 ｵ)5～10年 ｶ)10年以上 ｻ)子どもの頃から

⑥補聴器などを付けていますか？ ｲ)はい ｳ)いいえ

⑦補聴器などを付けている方には、どのくらい使用していますか？ひとつだけ○を付けて下さい。  
T 1 起きている間ずっとつけている。

T 2 テレビを見たり、家族と会話をするときにつける。

T 3 外出するときにつけることがあるが、家ではつけない。

T 4 ほとんど使っていない。

⑧お仕事をもちますか？ ｲ)はい ｳ)いいえ

\*家で家族と話す機会はどのくらいありますか？

ｲ)一人で暮らし ｳ)あまりない ｴ)よく話す

\*家族や身近な人の中に、聞けずやすいようにくらべてはつきり話してくれる人はいいますか？

ｲ)はい ｳ)いいえ

\*家で会話をするとときに、TVを消したりして、よく聞こえるように静かにする配慮をしていますか？

ｲ)はい ｳ)いいえ

Q4. 電話のベルや玄関のチャイム  
困らない 少困る かなり困る 非常に困る 機会がない

Q5. 来訪者(宅配便や新聞配達、近隣の人などの外からの声掛け)  
困らない 少困る かなり困る 非常に困る 機会がない

Q6. 急病やケガ、事故で緊急の連絡をしなければならないとき  
困らない 少困る かなり困る 非常に困る 機会がない

※この質問は必ずお答え下さい。

II 家庭外的一般社会生活

- Q1. 道端で知り合い(ご近所の方など)と会ったときの会話  
 困らない 少し困る かなり困る 非常に困る 機会がない
- Q2. 静かな室内での雑談、話し合い  
 困らない 少し困る かなり困る 非常に困る 機会がない
- Q3. 10人以上集まる会議やマイクを使った講演会  
 困らない 少し困る かなり困る 非常に困る 機会がない
- Q4. 立食パーティーや宴会など人が集まる賑やかなところでの会話  
 困らない 少し困る かなり困る 非常に困る 機会がない
- Q10. 遊園地や娯楽場、スーパーやデパートの特売情報などのアナウンス  
 困らない 少し困る かなり困る 非常に困る 機会がない
- Q11. 走行中の乗用車内での会話  
 困らない 少し困る かなり困る 非常に困る 機会がない
- Q12. 学校行事(参観日、入学式等)、町内会等の行事  
 困らない 少し困る かなり困る 非常に困る 機会がない
- Q13. 大学の講義、個人スクールの受講(英会話等様々な資格取得講座)  
 困らない 少し困る かなり困る 非常に困る 機会がない
- Q14. 温泉、公衆浴場、プール(機器などをははす場所の会話)  
 困らない 少し困る かなり困る 非常に困る 機会がない

※この質問は必ずお読みください。

Q5. 電車やバスに乗っている時の車内放送や会話  
 困らない 少し困る かなり困る 非常に困る 機会がない

- Q6. 病院や銀行などでの呼び出し  
 困らない 少し困る かなり困る 非常に困る 機会がない

- Q7. お店やデパートでの店員との会話  
 困らない 少し困る かなり困る 非常に困る 機会がない

- Q8. 道で後ろから来る車の接近音や自転車のベル  
 困らない 少し困る かなり困る 非常に困る 機会がない

- Q9. 映画館(特に日本映画)、芝居、コンサートの鑑賞  
 困らない 少し困る かなり困る 非常に困る 機会がない

- Q15. 駅での発車や検票におけるやりとり  
 困らない 少し困る かなり困る 非常に困る 機会がない

III コミュニケーション補助機器

- Q1. 電話でのやりとり  
 困らない 少し困る かなり困る 非常に困る 機会がない
- \*電話を聞きやすくする道具を何か使っていますか? イ)はい ロ)いいえ  
 (使っている道具を教えてください) (例: 音量調節) \_\_\_\_\_
- Q2. TVを見るとき  
 困らない 少し困る かなり困る 非常に困る 機会がない

※この質問は必ずお読みください。

\*TVの音量は、まわりの人と同じ大きさで聞いて分かりますか?

イ)わかる ロ)少し大きくなる ハ)かなり大きくなる ニ)大きくても分からない

\*TVを聞きやすくする道具を何か使っていますか? イ)はい ロ)いいえ

お使いの方はその道具を教えてください（例：スマートフォン、補聴器）

Q3. 次のあげるコミュニケーション補助機器を利用していますか？

- イ) フラックス
  - a) 利用している
  - b) 利用していない
  - c) 知らない
- ロ) 振動式目覚まし時計
  - a) 利用している
  - b) 利用していない
  - c) 知らない
- ハ) 光点滅式アラーム
  - a) 利用している
  - b) 利用していない
  - c) 知らない
- ニ) 字幕放送
  - a) 見ている
  - b) 見していない
  - c) 知らない
- ホ) パソコンの電子メール
  - a) 利用している
  - b) 利用していない
  - c) 知らない

**IV. 社会参加状況**

Q1. 聞こえが悪いことが社会生活や個人生活の範囲をせまめていると思うことがありますか？

- 特になし
- たまにある
- 時々ある
- よくある
- 常にある

Q2. 話しが分からなくてイライラしたり、腹立たい、思いを伝えることはありますか？

- 特になし
- たまにある
- 時々ある
- よくある
- 常にある

Q7. 聞こえが悪いために、一人でいた方が気が楽だと思うことはありますか？

- 特になし
- たまにある
- 時々ある
- よくある
- 常にある

Q8. 周囲の人が知っていないのに自分だけ知らなかったり、聞き違いをしていたことがありますか。

- 特になし
- たまにある
- 時々ある
- よくある
- 常にある

Q9. 情報探知の手段として以下のものを利用したことはありますか？

- イ) 要約筆記
  - a) 利用したことがある
  - b) 利用したことはない
  - c) 知らない
- ロ) 手話通訳
  - a) 利用したことがある
  - b) 利用したことはない
  - c) 知らない
- ハ) 聴覚ループ
  - a) 利用したことがある
  - b) 利用したことはない
  - c) 知らない

Q10. 着脱利用している連絡方法を教えてください。当てはまるものを全てこれをつけて下さい。

- 自分の家にいるとき：
- イ) 電話
  - ロ) フラックス
  - ハ) メール
  - ニ) その他( )
  - ホ) 連絡手段がない
- 外出しているとき：
- イ) 電話
  - ロ) フラックス
  - ハ) メール
  - ニ) その他( )
  - ホ) 連絡手段がない

Q3. 聞こえが悪いために、周りに取り残されていると感じることがありますか？

- 特になし
- たまにある
- 時々ある
- よくある
- 常にある

Q4. 聞こえが悪いために、会合などの参加をためらうことがありますか？

- 特になし
- たまにある
- 時々ある
- よくある
- 常にある

Q5. 聞こえが悪いことを周りの人が、理解してくれないと思うことがありますか？

- 特になし
- たまにある
- 時々ある
- よくある
- 常にある

Q6. 相手の話し声は聞こえても、話の内容が理解できないことがありますか？

- 特になし
- たまにある
- 時々ある
- よくある
- 常にある

**V. 職業上(仕事をお持ちの方)だけお答え下さい。**

Q1. 職場での仕事の連絡や一週に仕事をする場合のやりとり

- 困らない
- 少し困る
- かなり困る
- 非常に困る
- 機会がない

Q2. 職場での会議・ミーティング

- 困らない
- 少し困る
- かなり困る
- 非常に困る
- 機会がない

Q3. 職場の同僚との日常会話(雑談を含む)

- 困らない
- 少し困る
- かなり困る
- 非常に困る
- 機会がない

Q4. 職場での電話によるやりとり

- 困らない
- 少し困る
- かなり困る
- 非常に困る
- 機会がない

※の質問もお答え下さい。

※の質問もお答え下さい。

\*職場は静かですか? イ)はい ロ)いいえ

\*職場での同僚や上司との会話の頻度を教えてください。

かなり多い	やや多い	時々	あまりない	ほとんどない
-------	------	----	-------	--------

\*職場での同僚や上司との意志疎通は?

かなりよい	よい	どちらとも言えない	あまりよくない	よくない
-------	----	-----------	---------	------

\*あなたが得意なことを知っていて、仕事上の連絡などを助けてくれる人はいいますか?

イ)いる ロ)いない

\*「ゆっくり話してください」と書いてくださいと職場で頼んだ経験はありますか?

イ)何度もある ロ)1,2度ある ハ)ない

\*頼んだ経験のある方に向いています。相手方は頼みに応じた伝え方をしてくれましたか?

イ)応じた話し方を続けてくれた 羅)その期間限られた ハ)してくれなかった

\*聞こえを補助する道具(拡声器付きの電話やファックスなど)を職場で借りましたか?

イ)借りましたもらえた 羅)借りましたもらえない ハ)要望したことはない

\*聞こえが悪いために、必要な情報が伝わってきていないと感じることはありますか?

特になし	たまにある	時々ある	よくある	常にある
------	-------	------	------	------

\*聞こえが悪いことにより自分の地位や職種にハンデを感じることはありますか?

特になし	たまにある	時々ある	よくある	常にある
------	-------	------	------	------

\*よろしければ仕事の内容を教えてください。

(例)事務

その他 ここまでお尋ねしたほかに、困っている場面がありましたら、以下にご記入下さい。

## 難聴者の聞こえと生活の実態調査参考文献

今回の実態調査に伴うアンケート作成等につきましては、以下の文献等を参考とさせて頂きました。この場をお借りして御礼申し上げます。

- ・ 「共に考えよう！ 中途失聴・難聴者問題を！！」  
中途失聴・難聴者コミュニケーション実態予備調査報告書  
全日本難聴者・中途失聴者団体連合会  
1989年2月
- ・ 高齢難聴者の「生活意識」に関する実態調査報告書  
(社)全日本難聴者・中途失聴者団体連合会  
1993年3月
- ・ 第37回IBMウェルフェア・セミナー 報告集  
「中途失聴・難聴者のリハビリテーション」—国際比較から考える新しい視点—  
主催 東京都中途失聴・難聴者協会、協賛 日本アイ・ビー・エム株式会社  
1992年9月
- ・ 耳の不自由な人たちが感じている朝起きてから夜寝るまでの不便さ調査  
アンケート調査報告書  
社会福祉法人 聴力障害者情報文化センター  
1995年9月
- ・ 高齢の視覚障害者や聴覚障害者の生活・福祉ニーズに対する地域生活支援システムの  
構築と評価のあり方に関する調査研究報告書  
(財)長寿社会開発センター委託事業  
高齢障害福祉システム研究会 代表 植村英晴  
1997年3月
- ・ 聴覚障害のある者の音による情緒の認知・空間の認知などに関する研究  
—アンケート調査の結果から—  
今井秀雄  
1999年6月

- ・ **移動体通信と感覚障害者の生活環境に関する研究調査**  
 平成 11 年度 財団法人 電気通信普及財団助成費 研究成果報告書  
 財団法人 国際科学振興財団 専任研究員 研究代表者 高橋秀和  
 2001 年 3 月
- ・ **高齢者の聴力実態－老人保健施設入所者における調査－**  
 植村裕美 *Audiology Japan* 40,713～718,1997
- ・ **高齢難聴者の補聴器装用時の聴取困難場面－補聴器相談ケースへのアンケートの分析**  
 －塚田賢信他 (1997) 音声言語医学会予稿集
- ・ **日本語版 Hearing Disability and handicap scale (HDHS) による聴力障害の自己評価**  
 －騒音性難聴 85 例についての解析  
 －宮北隆志他 *Audiology Japan* 40,64～71,1997
- ・ **騒音職場退職者の聴力と生活－日本語版 HDHS による聴取障害とハンディキャップの自己評価**  
 －宮北隆志他 *Audiology Japan* 44,200～208,2001
- ・ **聴力レベル・語音明瞭度・難聴の種類と日常生活の理解度との関係**  
 安達忠治他 *Audiology Japan* 39,240～244,1996
- ・ **きこえについての質問紙 2001 (装用前) / きこえについての質問紙 (装用時)**  
 北里大学医学部耳鼻咽喉科教室 岡本牧人 (H13 年度補聴研究会にて配付された資料)
- ・ **高齢者における聴覚ハンディーキャップ自己評価法の検討**  
 廣田栄子他 *Audiology Japan* Vol.44, No.5, 2001
- ・ **補聴器装用経験の有無による受診動機と状況**  
 寺崎雅子他 *Audiology Japan* Vol.44, No.5, 2001

## 全難聴難聴者の聞こえと生活についての実態調査アンケート配布 協力機関等

今回のシンポジウム開催においては、その元となります「アンケート調査」が最も重要な位置を占めていました。収集したデータが少なければ社会への訴えも説得力が乏しくなってしまう。

しかしながら、大勢の方のご協力のお陰で多数のデータが集まり、シンポジウムの内容もより充実したものとなりました。ご協力ありがとうございました。

- ・ 神奈川県川崎市 聴覚障害者情報文化センター  
    ・ コミュニケーション講座 (受講生)
- ・ 東京都中途失聴・難聴者の集い (参加者)
- ・ 神奈川県川崎市 川崎リオン補聴器センター (顧客)
- ・ 東京都千代田区 神尾記念病院 鈴木 淳一先生 (患者)
- ・ 神奈川県藤沢市 きこえプラザ・湘南 (顧客)
- ・ 京都市中京区 京都市聴言センター (来訪者)
- ・ 東京都中野区 ワールドパイオニア (顧客)
- ・ 東京都港区 パナソニック補聴器プラザ東京 (顧客)
- ・ 神奈川県横浜市 パナトンプラザ横浜 (顧客)
- ・ 大阪市西区 (株) 東神実業補聴器センター (顧客)
- ・ 東京都中途失聴・難聴者協会 (有職会員)
- ・ 千葉県中途失聴・難聴協会 (有職会員)
- ・ 埼玉県中途失聴・難聴協会 (有職会員)
- ・ 神奈川県中途失聴・難聴協会 (有職会員)
- ・ 横浜市中途失聴・難聴協会 (有職会員)
- ・ 茨城県中途失聴・難聴協会 (会員)
- ・ 川崎市中途失聴・難聴者協会 (会員)
- ・ 茨城県下妻市 古橋耳鼻咽喉科医院 (患者)
- ・ 茨城県取手市 筑波補聴器センター (顧客)

その他 大勢の方にご協力頂きましたこと感謝いたします。

## アンケート自由記述意見

アンケートの最後に、「その他」として難聴で困る場面を自由に書いていただきました。ここには切実な訴えが具体的に書かれています。文章が熟さないところもありますが、生の声で訴えるところがあり、困難がよくわかります。

問題が多方面のわたるのでうまく分類できません。アンケートの項目にならって、Ⅰ・家庭生活、Ⅱ・家庭外の一般社会生活、Ⅲ・コミュニケーション補助機器、Ⅳ・社会参加の状況、Ⅴ・職業上の困難、Ⅵ・その他に従って分けてみました。少し無理なところもありますが、分類自体には意味がありません。意見の意味をお汲み取り下さい。全部記載します。(森 孝一)

### Ⅰ 家庭生活

#### ■ 家庭について

- ① 以前より聴力が落ちているのにもかかわらず、頭では理解してくれているはずなのですが、実生活の中では変化がありません。「伝わった・伝わっていない」「聞いた・聞いていない」など話がかみ合わず、すぐ「ウンばかり」「もういい!!」と言われ孤立感、罪悪感に悩む。家庭(家族)以外は事前に「聞こえないから…」と断っておくと、協力してもらえることが多い。無視されることもあるが…。
- ② 嫁ぎ先の義母がなかなか理解してくれず、かなりつらい思いをしました。そのためだけではありませんが、もちろんそのことも大きな理由ではありますが、体をこわし今は子供と2人で実家に戻っています。決していい加減に聞いているつもりはないのですが、聞き間違いや聞き落としを全て私が「いい加減に人の話を聞いているからだ」と責められました。一日中義母の言ってくることを聞き逃してはいけないと思うようになり(思うようになり…というより思わざるをえないという状態でした) 神経を張り詰めておりクタクタでした。今は実家でゆったりとした気分で暮しています。

#### ■ 障害受容について

- ① 自分の聴障はまだ受容できない。(家族全部健聴だから) 早くユニバーサルデザインの世の中になってほしいと願っている。
- ② 聞こえた時期が長かったからこそ不便さを感じますが、それでも私のまわりには理解しようとしてくれる人は多いと思います。ただ、私自身理解するまで時間がかかったと思います。
- ③ 「自分は耳が悪い」と言っても相手はすぐ忘れてしまう。発語がきれいなので、とてもそんな風に見えないと言われる。よって「自分は難聴である」ということが素直に言えない。どうしても隠してしまう傾向がある。
- ④ 聞こえが完全に元通りになればと思う。

#### ■ 聞こえについて

- ① 私の場合、高音はまったく聞こえないが、低音は20dB～30dB～70dB位、低音ほどよく聞こえる高音急墜型感音性難聴です。どこへ行っても皆さんに理解されにくく、

また聞こえていると思われ、(実は全く聞き間違えていたのに、正しく聞こえていると自分では思い込んでいた)、後で違っていたことがわかることがよくあり、誤解されやすく困っています。

- ② 日常生活で困ることは、聞こえが悪いと思って話し相手が大きな声を出す人、声の小さい人との会話、外出のときに自動車、その他の雑音で補聴器がガンガンして耳が痛いことです。
- ③ 音は聞こえます。しかし人によって会話が全然分からないときがあります。テレビは補聴器を使用すると大体は分かりますが、10チャンネルの“北野のたけし”の声は全然聞こえません。電話は補聴器を使用するとなお聞こえないので、補聴器を外して耳に当てますが、ところどころ分かりますが最終的には全然分かりません。現在、週1回パソコン教室に行っていますが、とても疲れます。耳鳴りはひどいです。50歳位から耳鳴りがあったと思います。あまり長いことなので気になりません。寝ている間を除いて頭の中にヘリコプターが入っているようです。生活には非常に不自由しています。総括すると、話は聞こえても話の内容が分かりません。
- ④ 1対1の会話は補聴器なしで何とか通じます。1対1でも病気見舞などで、相手の声が小さいと補聴器が必要です。また、2人以上の会話は補聴器が必要です。但し2人が一緒に喋ってしまうようなときは、聞き分けて理解することが困難です。また1対1でもテレビがかかっているときも駄目です。テレビの音を聞き分けるのも困難、駄目です。駄目というのは声が聞こえないということではなく、意味が理解できないということで、音声は聞こえます。したがって見て理解できるような野球、相撲などはアナウンサーの説明がよく分かります。ただし隣の解説者の話は全く駄目です。また、ニュース解説などで男子アナの声はよく分かるが、女性アナの声が分からないということもあります。
- ⑤ 現在病気療養中のため、また病状変化のため、聴力にわずかながら変化があります。(全く聞こえない→少し聞こえるときがある) 感音声難聴のため、補聴器が使えるのか(使えても慣れるまで時間がかかります) 分かりません。

## II 家庭外の一般社会生活

### ■ 医療

- ① 会社(職場)で健康診断がありますが、聴力が100dB以上で固定しているのに、毎回聴力検査を行なわれ、健聴者が後にずっと並んでいる。恥ずかしいし侮辱を感じる。予防医学協会が委託で行っているが、ノルマがあるのか、聞こえないと言っても検査する。ある程度重度の場合、検診を除外してもいいのではないのでしょうか？(聴力検査のみの除外です)
- ② 病院での診察で、医師がマスクをかけているときは、補聴器を使用しても聞こえないことがあります。
- ③ 病院でレントゲン検査のとき、別室にいる技師の声が聞こえにくい。
- ④ 耳科学の進歩を期待しています。
- ⑤ 病院の検査で、補聴器をはずしているとき困る
- ⑥ 病院で診察のとき、先生の言葉がはっきりせず、筆談してもらえないとき困る。
- ⑦ 病院で「合図くん」を使ってくれれば、呼び出しが分かって便利です。他のHPで用意するようにお願いしたらなんの連絡もない。患者の立場を考えているのか？ 利益の妨げに

なるのか？ 予算がないからか？ むしろ「合図くん」を用意して難聴者の利用者が増えれば、返って利益につながるのに。

- ⑧ 他の科に電光掲示板があるのに耳鼻科にない病院がある。会計のフロアにもないところがあり、自分が呼ばれたのが分からなかったり、よく聞き間違えたりする。

## ■ 学校について

- ① 健聴者には、「聞こえないこと」「聞き違えるということ」「聞き難いということ」がどういうことなのか？ またどんなときにどんな言葉が（たとえばイ・キ・シ・チ・ニ・ヒ・リ…サトウ・カトウ）聞き取りにくいのか？ なかなか理解していただけないため、どう説明したら分かっていただけなのか？ いつも困る。学校の説明会などに行き、あらかじめ「難聴です」と言うと、必ず「分からなかったら聞いてください」とか、「皆さんとは別に、個別に質問に応じます」と言われる。親切に言ってくださっているようだが、「聞こえない場合は分からないところが分からないのです。ですから質問も何もできないのです。聞こえなければ質問のしようもないのです。

私は皆さんと一緒に話を伺いたいので別にされては困ります」ときっぱりお答えすると、相手の健聴者は面食らって、どう対処したらよいのか困惑されます。

- ② ある塾に子供の学校の進路について、説明会があつて参加したときのことで。広い体育館でマイクを使つての話でした。残響、反響がひどく、補聴援助システムを持参して行ったのですが、取り付けられないと断られました。資料だけを渡され、これで勘弁してほしいと言われ、何時間もの間、音は聞こえてもほとんど何を話されているのかが分からないままイライラし、大変ストレスを感じさせられたことがありました。参加しても参加していないのと同じ、無駄な時間を費やし、マイナスだけ。こんなときは、怒ってすぐ資料だけを持ち帰ってしまえばよかったかなあと後で後悔しました。
- ③ 子供の学校での PTA 参観には、要約筆記を付けてもらつて情報保障はバッチリです。しかしふだんのお父さんお母さんたちの世間話は、なかなか仲間に入れず淋しい思いをすることが時々あります。できるだけ自分の気持ちを奮い立たせていますが…。自分のことだったら何とでもなるが、子供のために…と思うと、あまり聞こえないことをアピールもできないので、(さりげなく普通に表している) こういうところは難しいなあと思っています。  
(小5、小3の息子2人健聴、母難聴)

## ■ 聞こえについて

- ① 私の場合、リクルートメント現象があります。道に沿って歩いていると、バイクの音、マフラーを改造した車がアクセルを吹かす音、ダンプの騒音、ヘリコプターの音、ジェット機の音、救急車・消防車のサイレンの音を聞くと飛び上がってしまい、指で耳に栓をしないと耐えられません。不必要にアクセルを空ふかししたり、マフラーを改造して大きな音を出すのは止めてほしい。もっと取締りを強化してほしい。他に、NTTのライブホン「ときめき」を使ったコンサートでは、スピーカーの近くに席を設けるのは極力避けてほしい。席を固定されるため自分で自由に移動ができず、大音響のスピーカーの前でリクルートメント現象のある難聴者はとても耐えられません。音楽を楽しむどころではなく、逃げ出したくなりました。

- ② 左耳の方の難聴度が右耳より大きいのが、補聴器と左耳だけでは病院など呼出しが聞こえません。右耳にも入れるとよく聞こえますが、数人が喋っているときは雑音で聞こえません。
- ③ 私の場合は左が聞こえない上に、耳鳴りがしています。騒々しい場所、左側からの音声、それに体調によって聞こえが非常に違います。電車内の放送がスピーカーの調子や話す人の話し方によってほとんど分かりません。座席が話す人の右側になったときも分かりません。左側から話しかけられると知らん顔をしていたりします。電話の周囲で大きな声でしゃべられると、ほとんど聞き取れないこともあります。人に何度も聞き直さなければならぬときがあります。カラオケで唄うときなど、聞き取れないこともあります。右側も聞こえなくなったらという不安もあります。
- ④ 車の運転中、右折禁止の交差点を知らずに右折しようと待っていたときでした。たまたまパトカーに見つけれ、「右折禁止」と注意のアナウンスをされたらしいのだが、音は聞こえていたが、スピーカーからの音声が何を言っていたのか分からなかった。自分に対して言っているとは気づかず右折してしまい、まるで無視したかのようにとられ、罰金を取られて悔しい思いをしたことがあった。その頃は、まだ身障者手帳をもらえるほどではなく、「難聴なので聞き取れなかった」とは言えなかった。
- ⑤ 町内放送が聞き取りづらい。

## ■ コミ手段

- ① JRの電車のアナウンスですが、その人の声質により聞き取れるときと、取れないときがある。地下鉄とかのように、次の停車駅が車内に電光掲示されると安心して電車に乗れる。
- ② 電車・バス以外の交通手段に文字による案内がない。飛行機・船では密室性が高いので不安。
- ③ 音は分かっても言葉が分からない。話すことはできるのに聞き取れないということが、周りの人には理解してもらえない。難聴者や中途失聴者のための手話教室があると嬉しい。
- ④ 家に一人にいるとき、家の中での事故(火事が発生したときや強盗に入られたときなど)、また外での災害(近所で火事が発生したときなど)すぐ連絡できません。警察と消防署への連絡は、ボタンひとつで操作できるような緊急連絡方法があればいいです。各市町村では一人暮らしの老人に限っているようです。聴覚障害者の一人暮らしも、日中一人であればできるようになればといつも思っています。FAXでは遅すぎる。書いている間に事故は終わってしまう。もし事故が発生したらどうすればよいのだろうと…困っています。
- ⑤ 通勤途上での突発的な事故、災害の連絡方法を確保したいが、現状は文字のメールのみ。携帯電話を補聴器でも使えるようにしてほしい。文字メールでの連絡を組み合わせるなど工夫してほしい。

## ■ コミについて

- ① どうしても会話が必要とき話し合いたいが、自分の声の大きさがどの程度か分からない。どうしても大き過ぎるようだ。また控え目に言うと、さっぱり分からないという反応が見られる。
- ② 何度も聞き直しても分からないことがよくあるので、分かったふりをする。
- ③ 自転車が歩道を通る（特に後ろから来るとき）ことが非常に困る。自転車道を作ってくれ

ないかと思う位です。

- ④ 歩道を自転車が走行することが困ります。
- ⑤ タクシーに乗るとき。(一人では利用したくない)
- ⑥ 人間関係で時々トラブルを起こします。

### Ⅲ コミュニケーション補助機器

#### ■ FAXについて

- ① 公共機関の連絡先にFAX番号がない。電話番号だけのものが多い。
- ② 東京ガスから「東京ガスお客様センター」電話番号の案内がきたが、電話番号だけ！ 緊急に連絡したくてもFAX番号の案内がないのでできない。
- ③ 宅配便…、ドアチャイムにベルフラッシュを付けたらいいかもしれないが、寝ているとダメ。振動で分かるドアチャイムがあればよいが。それがわざわざなくてもできる方法がないかと考えてみた。不在配達票の視障者のためにネコの耳の切り口を入れていることをヒントにして、地域の営業所に自分のFAX番号や携帯メールアドレスを登録してもらい、前もって「明日の午前配達します」という連絡を、FAXや携帯電話に入れてくれたらありがたいなあと思っているのです。どうでしょう。

#### ■ FMワイヤレスシステム

- ① 学校の保護者会するとき、毎回FMワイヤレスシステム（携帯型のもの）を持参するが、マイクを話す方に付けていただかなければならない。しかし、話し手が次々変わると時々マイクを机に置いたまま話されることがあり、「マイクを付けて話して下さい」とお願いしても、すぐ忘れ付けていただけないことがよくある。また、マイクを回すときにいじられると雑音がひどく、耳が疲れてしまって困る。また、こういった補聴援助システムが設置してある建物はごく限られた施設にしかなく、いつでもどこへ行っても利用できるような社会には、まだまだ程遠い。仕方なく、個人でFMワイヤレスを持ち歩き、行く先々で設置（卓上型送信機を利用する場合）させてもらっているが、外部出力端子が見つからない、または取り付けられない場合は持って行っても無駄になる。

#### ■ 電話について

- ① 携帯電話の音量、もっと上げたい！
- ② 公衆電話に磁気ループ対応のものが少ない。(探すことがある。)
- ③ 電話の対応のとき、困ります。

#### ■ 映画について

- ① 字幕付の日本映画やアニメの映画が少ない。限られた作品、場所に行かなくてはならない。どこでも（字幕付だと）観られると嬉しいです。
- ② テレビはテロップをたよりにして見ていましたが、最近ほとんど見なくなりました。ですから映画館などにも行きません。
- ③ 映画館…、昨今新設の映画館に赤外線アシストホンのようなものが用意されているのが増えてきた。それはよいが、以前からある映画館にループ等を付けてほしい。毎回字幕上映

のたびにループを取り付けに行くのが大変だ。ループを使わない仲間も手伝ってくれるので申し訳なく思っている。それを取り付けるための予算を獲得することはできないか。映画館、コンサートホール、公民館、劇場等に取り付けてほしい。

#### ■ 補聴器について

- ① 耳が悪いとすぐ補聴器をすすめられますが、補聴器による疲労もかなりのものです。補聴器が本来の耳のような機能を持つよう研究していただきたいと深く願います。
- ② 補聴器を買うとき、耳鼻咽喉科医院の紹介で行ったお店で、高価なもの（30万円）をすすめられ、他に買うところが分からないので、仕方なく買ってしまっただけでクレジットに苦しんでいます。
- ③ 補聴器はどうして全額自己負担なのか？ 補聴器がなければ社会生活に差し支える人には、一律に何か社会的サポートをしてもらえないだろうか？（例えば保険の適用 e t c） 現行の制度では、障害者手帳を持っていても福祉法に対応した補聴器は型が古い。手帳保持していても、よい(新しい)ものを買おうとすると、結局自己負担を強いられてしまう。
- ④ 必要な時は補聴器を利用(右、左とも)しているが、雑音を吸収するため、2～3年経つがなかなか馴れず、疲れることが多い。
- ⑤ 補聴器の金額が高い。最近ではデジタル補聴器が出ており、金額もアナログの倍以上する。国の補助金額も現状に見合っていないと思う。店の人はこのデジタルのみを強くすすめてくるので、高い(予算に合わない)から安いのをと言いつづらぬ。補聴器フィッティングの場が、前よりも営利的な面が強くなってきたイメージがあり、行きにくい面も出てきている。自分で調整もできないので困る。
- ⑥ 人工内耳使用により補聴器を使用している。
- ⑦ 補聴器をオーダーによる差額で買ってくれない行政がある。
- ⑧ 補聴器を購入(かなりの高級品)して使用しています。販売店で調整をお願いするのですが、技術が低く、完全に調整されていないような気がします。

### IV 社会参加

#### ■ 聞こえについて

- ① 会議などの場で、右耳の側で話す人の声は全く聞こえません。車に乗っているときも同じです。片方の左耳が聞こえるので反対側にかなり傾けて聞くことがほとんどです。
- ② 警察署で交通安全の話がわからない。ビデオで交通事故のことが少し字幕で出るので多少はわかるが、時折説明されるのでよく聞き取れない。
- ③ 中途失聴は外から見ただけでは分からず、しゃべれるので健聴者と思われ、それを正すことの難しさ(説明して相手に分かってもらう)があります。もっと耳の方のバリアフリーが進んでほしいです。
- ④ まったく聞こえないと、周りの人に理解してもらうには、かなりの時間が必要である。自分は聞こえない言ってしまうと、その場で会話がストップしてしまうことがあり、つらい思いをする。筆談、その他の手段で会話を持続してもらいたいと思うけど、なかなかそこにもっていけない。
- ⑤ 芝居のセリフが聞こえない。分からない。バイオリンの高音が聞こえない。

- ⑥ どうしようもないので“困る”。1対1にしる、1対多数にしる情報が伝わらないのは悔しい。仕方なく席を外そうとするとあわてて引き留める。それが孤立するものへのファーストパンチであることが健聴者にはわからない。
- ⑦ 自分が難聴であることを知らない相手に対して、何度も言い直しを求めるのは気が引ける。相手が苛々してくるのがわかってしまい辛い。
- ⑧ 少し聞こえるので普通の態度で会話するため、周りの人は難聴であることをすぐ忘れてしまう。何度も聞き返すことにより気分を悪くさせてしまう。

#### ■ コミについて

- ① 町内の班長当番、地域内の交流（隣近所とはあまり話さない）
- ② 友だちと温泉に入ったとき、会話ができないので困ります。仕事ではまわりの方々に恵まれ、助けていただいています。
- ③ 今は頼めばどこでも筆談してくれるが、たまに書いてくれない人もいる。
- ④ 買物のとき、説明書があればよく読みますが、ないと店員さんに尋ねても要領を得ないことがあり困る。
- ⑤ コミュニケーションが不便なために、昔からの友人と疎遠になってしまいました。

#### ■ 手話について

- ① 手話を習っていますが、人と手話をする機会がなくすぐ忘れてしまいます。
- ② ファミレスに行き、手話で会話していたら、あからさまにオーダーを無視された。
- ③ 手話通訳派遣を巡って、会社側と交渉中。「守秘義務」にこだわり認可難しい！

#### ■ 社会の理解について

- ① ろう学校出身で18才男子、今年入社。「日本語」習得に苦労している。音声がダメで、文章もおかしい。健聴女性たちに小突かれ、つねられている。本人に対して「知的障害がある」と平気で言う。ことばには「9才の壁」があることがわからない。助ける方法が見当たらない。
- ② 難聴そのものが一般の人たちには理解しづらいようで、誤解が多い。
- ③ 外から見えないハンディで困る。
- ④ 病院の中では筆談に応じてもらえるし、中途失聴というものを理解してもらえます。外では「話せる→聞こえないはずがない」と思う方が多いようなので、話しません。特に一期一会的な人には。私も筆談をします。
- ⑤ 知らない人に会うのが苦手です。聞こえにくいことをなかなか言えません。友人達と話しているときに話に入っていけません。邦画を見に行ったり、講演会に参加したりできません。家族や周りの理解をなかなか得られないと感じるときがあります。
- ⑥ 難聴や補聴器に対しての世間の誤解が多いので、生活全般に消極的になる。

## V 職業上の困難

### ■ 職業について

- ① 聞こえなくて理解できなかったことが、能力がないと思われてしまうことが残念です。社内アナウンスなど聞こえないのに理解できてないと思われ、何度も注意されたりする。文書で指導してくれたらいいのに…。
- ② 以前まだ子供が小さい頃、『障害者と企業を結ぶ集い』ハローワークでの就職、面接があるのを見つけ、難聴でも働ける職場があるかと探したが、事務系の職は年齢制限、性別ではほとんどダメ。さらに残ったところで、電話が使えない人はダメ。結局一社のみ、電話応答は必要ないところを見つけたが、子供が小さい理由もあってか不採用。その後、子供が大きくなったので再度職を探したが、「パソコンの基本操作ができる人」が条件とあったので問い合わせたところ、また電話でのお客さんとのやり取りが必要とわかり、「難聴で電話はムリ」と言ったら、また断られた。これは差別ではないだろうか？ よほど何か資格でも持っていないと家庭の主婦で難聴者は、再就職が難しい。一般の健聴者の主婦があちこちでパートなどをしているのを見ると羨ましく思う。
- ③ 私の左耳はほとんど聞こえず（音が五十音として）、右の耳も補聴器なしでは普通に生活できない。それなのに障害者に該当しないのが不満です。現在は専業主婦ですが、子供が大きくなって手が離れたときに、再就職しようと思うがなかなか難しい。障害者になるといろいろと補助されることも多いのに、私は中途半端に聴力が悪いので、不便なことばかりです。
- ④ 職場でのコミュニケーションの問題が、一番の悩みです。
- ⑤ 農家で粟畑2反歩、植木畑2反歩の管理をしているので、忙しい毎日を過ごしています。

## VI その他

### ■ 難聴団体

- ① 協会があるのは大切だが、難聴問題をどうにかできるのかといたら疑問。何とかしてくれる訳じゃないので、現実を常に受け止めなければならない。
- ② 中途失聴・難聴者協会で手帳がないため、以前手話講習会受講を否定された。何のための協会なんですか？ 私が聞こえなくなって初めて受けた差別は、「聞こえる世界の側」からではなくて「聞こえない世界の側」からだった。程度の違いこそあれ聞こえなくなったときの苦しみ、悲しみ、不安感、不便さは、手帳を保持しているいないにかかわらず同じだと思います。それで悩みつつも前向きになろうと努力して勇気を出して協会に連絡したとき、「あなたは障害者じゃないから今すぐ受け入れられない」と言われた。このショックは計り知れませんでした。同じ悩みを抱えている人々が集うはずのところから否定されて本当にやりきれませんでした。なぜこのようなことが生じるのでしょうか？ 何のための協会なのか、その目的と方向性について考え直して欲しいです。現在初級手話講習会を受講していますが、協会には入りたいと思えません。もっと考え方を柔軟にして、いつでも誰もが受け入れられる場所であるべきじゃありませんか？ 今後、私のように協会側に否定されて失望する人が一人も出ないように考えを改めて下さい。社会を変えていくのは非常に大切なことです。多くの方々の努力や協力が必要だと思います。その多くの人々の協力を得るためにも、まずは中失・難聴団体の内面を改善していくべきじゃないのでしょうか？ 決して悪口を言いたいものではありません。今後よりよくなっていたきたい！

- ③ ろう者や健聴の友達がたくさんいる。だが自分と同じ環境で育ってきた難聴の友達はいない。本当の自分を理解してくれる、また悩みをわかってくれる人はいない。
- ④ 難聴者協会に自分の居場所がない。手話は知っているが、聴力がまだ残っているということで嫉妬されたりねたまれたりする。自分の悩みが言える場ではない。
- ③ 手話サークルでも難聴者は理解されにくい。「あれは健聴者だ」と言われる。

#### ■ 福祉について

- ① 日常生活用具の支給についてですが、等級にかかわらず困っていることは同じです。例えばドアチャイムにしても支給されなければ居留守を使うようになります。福祉国家を表に出すなら、デシベルダウンを認める必要があります。
- ② お知らせランプもデシベル（等級）に関係なく買ってもらいたい。
- ③ 聞こえを助ける福祉施策を、少しでも難聴者に良い方向へ働きかけて下さることを期待しています。
- ④ 福祉事務所に必要な品物を頼むのが面倒です。例えばAという品をどの店で売っているかを自分で調べ、見積書を事務所まで持っていかなければなりません。おっくうでつい止めてしまいます。

# 難聴者の聞こえと生活についての実態

## シンポジウム

### [参加者アンケートから]

神奈川県難聴協会 中森 紀夫

#### 1、 回答データ

回答総数：58

非常に良かった・・・31（54%）、良かった・・・24（41%）

よし悪しどちらとも言えない・・・1（1.7%）

回答なし・・・2（3.4%）

以上を総合すると、95%の人がシンポジウムをやって「良かった」としている。

#### 2、 主な感想

- ・ デシベル・ダウンや障害等級に拘泥せず、難聴であることのアピールやニーズの明確な表明が大切と思った。
- ・ 日常生活に不便があれば、聴力や障害等級に関係なく総ての聴覚障害者にサポートをとの意見、又軽度の人への生の声が聞けて良かった。
- ・ 色々な専門家の参加により内容が多面で参考になったし、データは貴重だと思う。
- ・ これからの難聴者運動に方向性を与えられた。実践に結びつけたい。
- ・ 提供された情報が豊かなのは良いが一面多すぎる感じがし、しかも専門的過ぎて同じ専門家同志でしか解らないような内容、言葉が多かった。
- ・ 職場で聞こえの配慮がなく不安な日常を過ごしている。
- ・ 難聴本人にも関わらず、意外と当事者としての実態を知らずにいたので勉強になった。
- ・ これ1回こっきりとせず継続して開催して欲しい。

#### 質問及び意見

##### (1) 質問

- ・ カイ2乗検定とは？
- ・ 斎藤正昭氏に
  - ① 「実態調査のまとめ」は軽・中度難聴者についてなのか、難聴者全体についてなのか？
  - ② この「まとめ」から聴覚障害者の定義づけはどうなるのか？
  - ③ この「まとめ」からどんな方向づけが出来、活動課題を引き出せるのか？
- ・ 植村英晴先生に
  - ① 障害の「階層化」、又環境の分類とは？
  - ② 障害分類に基づく施策を実施するにはどんな方法があるのか？
  - ③ この改定版に基づいて障害を説明し、理解を求めていくにはどんな方法があるのか？  
(せめてヒントだけでも与えて欲しい)。

##### (2) 意見

- ・ (当事者からだけでなく) 大学や研究所からも行政に啓発のアプローチをすべきではないか？
- ・ すべての耳鼻科医は聴覚障害に関心を寄せて欲しい。
- ・ 高齢難聴の進行は痴呆につながり易い。その対策としてノートテーカー(個人派遣)制度の充実が望ましい。

## 本事業の今後の課題

(社) 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会常務理事 森 孝一

### ・手帳を持たない人にも聞こえの困難

この度のアンケート調査では、手帳を持たない（聴力レベルで中度・軽度）難聴者を含めた一般難聴者の聞こえを調べました。生活のいろいろな場面における聞こえ具合について、「困らない」、「少し困る」、「かなり困る」、「非常に困る」、「機会がない」の5つの中から、1つ選んで回答いただきました。

「Ⅰ 家庭生活」の「5～6人以上集まる賑やかな会話」（Q3）では、最も多くの人々が「非常に困る」と答え、難聴者が特に困ることでした。ここで手帳を持っていない人、手帳が4～6級の人、1～3級の人では、差がないことが統計的に確認されました。そしてこの他の多くの項目で、手帳を持っている人といない人の間で、困ることに差がありませんでした。手帳を持っていない人にも、持っている人と同様に聞こえの困難があることが明らかになりました。

手帳を持たない人も、持っている人と同じように困っています。補聴器が必要であり、聴覚障害者として福祉を必要としています。

### ・社会参加に困難

一般の社会生活（Ⅱ）では、「非常に困る」という答えが多くありました。「会議やマイクを使う講演会」（Q3）、「人が集まる賑やかなところでの会話」（Q3）、「車内の放送や会話」（Q5）、「病院や銀行などでの呼び出し」（Q6）など、実に15問中9問の最も多い答えが、「非常に困る」でした。障害者の社会参加が叫ばれています。難聴者は社会参加に非常な困難を持っていることが確認されました。

また、手帳が4～6級の人と持たない人との間に、困るものの差がないという傾向が、ここでもはっきりみられました。実に15問中、14問に差がありませんでした。これは手帳を持たない人も、社会参加に困難を持っているということでもあります。

「Ⅳ 社会参加の状況」では、「特にない」、「たまにある」、「時々ある」、「よくある」、「常にある」の5つの項目の中から、1つ選んで回答いただきました。聞こえが悪いために「社会生活や個人生活の範囲を狭めていると思うことがあるか？」（Q1）に「常にある」が最も多い回答でした。

「周りから取り残されていると感じることがありますか？」（Q3）、「会合などの参加をためらうことがありますか？」（Q4）、「話の内容が理解できないことがありますか？」（Q6）、「自分だけ知らなかったり、聞き違いをしていたことがありますか？」（Q8）に対して、「よくある」が最も多く、次いで「常にある」でした。難聴者は、社会参加の困難を皆感じているのです。そして完全に参加できず、孤独になりがちなのです。

また4～6級の人と、手帳を持たない難聴者に困難の差がないことは、ここでも多くの項目で見られました。

## ・職業上の困難

仕事の場において聞こえの困難があると困ります。重要な問題です。そこで「V 職業上」について聞きました。「職場での会議・ミーティング」(Q2)や「職場での電話のやりとり」(Q4)には、「非常に困る」、「かなり困る」の回答が多くありました。また、「必要な情報が伝わっていないと感じることはありますか?」について、「常にある」、「よくある」、「時々ある」と答えた人が多く見受けられました。「自分の地位や職種にハンディを感じることはありますか?」にも、「常にある」、「よくある」、「時々ある」という答えが多くありました。難聴者は職場でも非常に困っているのです。会議における情報保障、電話に代わるコミュニケーションなどが必要です。難聴者であるため職場でハンディを負うことをなくさなければなりません。

## ・難聴者の存在が見える社会

塚田先生から、難聴者が見える社会という指摘をいただきました。今日、難聴者は600万人を超えるといわれます。しかし現実の社会を見ると、難聴者がほとんど見えません。難聴者は、自らの障害を積極的に訴えることをしません。聞こえが悪くなったことは、年を取った・能力が落ちたと思われるがちです。人に知られたくないこととして隠している人さえいます。難聴者が積極的に自分の障害を訴え、理解を求める努力が必要です。

他方、社会にも無理解があります。難聴者への配慮が全くといってよいほどありません。町を歩いても、難聴者への配慮が見えません。知らない場所へ行きたいと探しても、地図や番地の表示が少なく、聞きたいと思っても難聴者に分かるように対応してくれる人は滅多にいません。補聴器からは騒音が拡大されて、煩く入ってきます。「福祉のまちづくり」には聴覚障害者への配慮がほとんどありません。静かで文字情報が多い社会が、難聴者に優しい世界です。これは健聴者にも優しい世界です。まちづくりや耳マークの普及、機関紙で難聴問題についての啓蒙が必要です。

## ・難聴の理解

難聴は見えない障害といわれます。江時さんは、難聴者はもっと自分から訴えなければ、理解がえられないと指摘されました。聞こえないこともあります、聞こえても分からないということもあります。聞こえても分からないから、難聴なのです。聞こえが悪い状態はいろいろあり、難聴者によって違います。聴力検査によって何dBの音は聞こえるとするだけでは、表せない難しさがあります。80dBの人で電話ができる人があり、60dBの人ができないということがあります。聞こえの困難を明らかにし、難聴者は何を求めるのかを、考える必要があります。

## ・新国際障害分類

植村先生から、世界保健機関(WHO)から昨年5月発表された新国際障害分類(ICF)について報告がありました。ここでは障害を損なわれた機能の面で見ただけでなく、そこから引き起こされる社会的困難、社会参加からも考えるといいます。難聴者は社会参加や仕事において多くの困難があることが明らかになりました。新国際障害分類に照らして聴覚障害を説明し、社会の理解を図り、福祉を考えることが新たな課題です。

## ・手帳を持たない難聴者

この調査・シンポでは、手帳をもらえない難聴者も対象に含めて考えました。回答を手帳が1～

3級、4～6級、手帳を持たない人に分け、聞こえの困難を分析し、比較しました。手帳を持っている人といない人で、聞こえの困難に差がないことが、多くの質問の回答を統計的に分析した結果わかりました。手帳を持ってない人も含めて、難聴者の問題を考えていかなければなりません。

手帳を持っていない人を「軽度の難聴者」という言い方に対して、「軽度」ではないという指摘がありました。手帳を持たない難聴者も持っている難聴者と同じように、聞こえの困難があることがわかりました。ですからこの人を「軽度の難聴者」というのは正しくありません。どういう言い方をするか、今後全難聴でも考えていかなければなりません。

聴力測定により 70 dB 以上を高度、50～70 dB を中度、50 dB 以下を軽度という場合があります。これは聴力による分け方として、別に考えるべきでしょう。

#### ・難聴者のニーズ

全難聴は聴力が 70 dB ・手帳をもらえない難聴者にも福祉を拡大するよう、デシベルダウン運動をしてきました。これについて聴力のレベルで障害を認定するという方法を、問い直したのが今回の事業でした。聴力 50 dB の人が分からなくて、80 dB の人が分かる場合があります。また、手帳支給のレベルを 50 dB に引き下げても、認定されない難聴者の問題がまた起こります。これに対して高岡理事長は、難聴者のコミュニケーションを必要とするニーズによって補償することを提案しました。必要な場面に要約筆記を派遣し、ループなどの補聴援助機器を配置してもらうでしょう。聞こえのよい電話を設置し、電話リレーサービスを普及することです。聞こえが悪くなったら、誰にでも補聴器を給付するようにすることです。東京には、65 歳以上で聞こえが悪い人には、補聴器を給付する区があります。これを一般に広げ、聞こえが悪くなったら誰でも補聴器をもらえるようにすれば、難聴者のニーズに応えられます。

難聴者の福祉は、dB ではなくてニーズというのは新しい提案です。手帳制度によって制限された福祉を、拡大できる可能性を持っています。そこで難聴者のニーズで考えます。スローガンを唱えているだけでは福祉は実現しませんから、新たに「難聴者のニーズ」とは何かを明らかにする必要があります。

難聴者は皆補聴器を必要としています。これはニーズです。だから難聴者には誰にでも補聴器を給付してもらいたいです。が、実際的には困難です。眼鏡を必要としている全ての人に、給付してもらえるでしょうか。デシベルダウンは止めるとしても、何らかの聴力についての基準が必要ではないか、こういう意見がありました。この点をどう考えるか、これは新しい課題だと思います。

### 1) 報告・発言者関係

日本社会事業大学	植村 英晴氏
みみより会	江時 久氏
筑波技術短期大学	大沼 直紀氏
北里大学病院	鈴木 恵子氏
東京都心身障害者福祉センター	塚田 賢信氏
小田原市立病院	寺崎 雅子氏

### 2) 全難聴 実務委員会関係

全日本難聴者・中途失聴者団体連合会理事長	高岡 正
茨城県中途失聴・聴聴者協会会長	斎藤 正昭
神奈川県中途失聴・聴聴者協会	中森 紀夫
全日本難聴者・中途失聴者団体連合会常務理事	森 孝一
全日本難聴者・中途失聴者団体連合会青年部長	清成 幸仁

### 3) 司会

全日本難聴者・中途失聴者団体連合会副理事長	山口 武彦
-----------------------	-------

発行日 2002年5月31日

編集 「難聴者の聞こえと生活に  
ついての実態シンポジウム」実行委員会

発行 社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会

〒162-0066 東京都新宿区市ヶ谷台町14番地

MSビル市ヶ谷台1F

電話 03-3225-5600

FAX 03-3354-0046

E-mail zennancho@zennancho.or.jp

印刷所 株式会社 功文社

\*無断転載を禁じます。